

1. 平成22年度事業報告

(平成22年4月1日から平成23年3月31日)

【企画運営活動】

1. 第27回通常総会

平成22年5月28日、ヴィアーレ大阪（大阪府中央区安土町3丁目1番3号）において開催した。

代議員総数187名のうち、137名（内27名出席、委任状110名）が出席し、代議員の過半数である定足数を満した。第27回通常総会は成立したことを確認した後、次の議案を審議し、満場一致で承認決議を行った。

- (1)平成21年度事業報告承認の件
- (2)平成21年度計算書類承認の件
- (3)平成22年度事業計画承認の件
- (4)平成22年度収支予算書承認の件
- (5)名誉会員推挙承認の件
- (6)評議員一部交替の件
- (7)公益法人制度改革の対応について

2. 理事会 (4月19日) (6月15日) (8月10日) (10月19日) (12月13日) (3月11日)

本会の意志決定機関として、本会の事業活動を担っている事業企画委員会、機関誌編集委員会、各種委員会等の活動状況の報告をうけ、定款によって定められた審議事項並びに各種委員会を含めた会全体の運営に係わる事項について審議・決定した。

3. 評議員会 (4月19日) (10月19日)

定款によって定められた審議事項①総会に付議するために理事会より委託される事項②総会または、監事から委託される事項③この法人の諸規定の制定及び改廃に関する事項④その他この法人の運営に関する重要事項について審議・決定した。

4. 各種委員会

会長の諮問に答え、また委員会規定に基づき各種の業務執行にあたる。平成22年度は下記9の常置委員会並びに特別委員会を設置した。

(1) 会員委員会 (1回) 10/27

化学、化学工業関連分野はもとより会に有用な会員獲得のため全国かつ広領域な視野にたつて勧誘活動を行なった。

(2) 財務委員会 (1回) 2/24

本会の予算案の編成並びに経理と財務を掌理し、長期的財政の安定を図るために委員会を1回開催し、本年度の予算の執行、次年度の予算について審議した。

(3) 事業企画委員会 (6回) (4/16、6/8、8/26、10/21、12/2、2/24)

本会の目的達成のため必要な事業の企画と実施するために委員会を6回開催した。

(4) 会誌編集委員会 (12回) (4/6、5/10、6/3、7/6、8/3、8/27、10/5、11/8、12/3、1/13、2/7、3/7)

機関誌の編集、刊行を掌理するために委員会を12回開催した。

(5) 化学技術賞審査委員会 (1回) (3/1)、小委員会 (1回) (12/8)

表彰規定に基づき化学技術賞授賞者及び環境技術賞授賞者の選考を行う為に小委員会1回と審査委員会を1回開催し、平成22年度の授賞者を選定した。

(6) 人事委員会（1回）（8/10）

平成22年度は事務局職員給与及び契約職員の時給について審議し、理事会へ提案した。

(7) 総務委員会（1回）（7/14）

平成22年度は旅費規定の改定、会計規定の覚え、代議員選挙規定、常勤役員の報酬等に関する規定、公益法人制度改革対応のための一般社団法人近畿化学協会定款案・会員規定案を作成し、理事会へ提案した。

(8) 監査会（1回）（5/14）

定款第20条6項に掲げる監事の業務を執行する為に監査会を1回開催した。

(9) 合同事務局運営委員会（2回）（6/2、11/30）

財団法人大阪科学技術センタービル608号室に同居する化学系の学術6法人の運営に関する事項について2回の委員会を開催し、部屋代・人件費・社会保険料・事務局運営経費等の分担経費を決定した。

【人材育成のための研修事業及び能力開発事業】

1. 第32期研修塾（塾生25名）

会員企業より選抜された30歳代の技術者、研究者を対象に1年を通じて人格並びに人脈形成を図った。明日の産業界を担う次代の人材育成を主旨に、自らに討議主題を課すと共に自らの頭で考える力を涵養し、また、第一線でご活躍の講師を招いて、その人間性や思想に触れる中でお互いに研鑽し、資質を磨き、人脈並びに人格形成を図るために本講座6回、自主講座6回を開催した。

（本講座）

第1回・4月10日・大阪科学技術センター

① 塾頭、副塾頭挨拶

② 自己紹介

③ 塾頭講話 「世界観を育てるために」 大阪大学名誉教授 卜部 格氏

④ 副塾頭講話 「研究、教育、余話」

福井工業大学工学部環境生命化学科教授 増田 俊夫氏

⑤ 副塾頭講話 「キンカ玉条」 大阪工業大学工学部応用化学科教授 益山 新樹氏

第2回・6月5日・大阪科学技術センター

① 「技術者倫理を考える」

立命館大学テクノロジー・マネジメント研究科客員教授 中村 収三氏

② 事例研究とグループディスカッション

第3回・8月7日・大阪科学技術センター

① 「創造的ケミストへの変身術」 大阪府立大学大学院理学系研究科教授 柳 日馨氏

② 「映像はいかにモダン都市を表現したか？—昭和12年の映画「大大阪観光」の場合—」
大阪大学総合学術博物館教授 橋爪 節也氏

第4回・10月2日・大阪科学技術センター

① 「リチウムイオン二次電池の開発経緯と技術動向」

旭化成(株)フェロー・吉野研究室長 吉野 彰氏

② 「社会人のための仏教入門」 白鶴酒造(株)研究開発室主任 山内 隆寛氏

第5回・12月4日・大阪科学技術センター

① 「製薬ビジネスの激動期を勝ち抜くための戦略」

田辺三菱製薬(株)研究本部長 村松 実氏

第6回・2月5日・大阪科学技術センター

- ①「水溶性大豆多糖類の開発と事業化」
不二製油(株)取締役・蛋白加工食品カンパニー蛋白素材部門長 前田 裕一氏
- ②「サル学から見たヒト」 京都大学大学院理学研究科准教授 中川 尚史氏
(自主講座)
- 第1回・5月14日～15日・ホテルラフォーレ琵琶湖
- ①自己・自社PR
- ②合宿：ホテルラフォーレ琵琶湖
- 第2回・7月2日～3日・味の素(株)川崎工場、麒麟麦酒(株)キリン横浜ビアビレッジ
- ①見学：味の素(株)川崎工場
- ②講演：「味の素、R&DのDNA」
味の素(株)アミノ酸カンパニーアミノサイエンス研究所 横関 健三氏
- ③見学：麒麟麦酒(株)キリン横浜ビアビレッジ
- ④合宿：新横浜国際ホテル
- 第3回・9月10日～11日・セイコーエプソン(株)塩尻事業所
- ①見学：セイコーエプソン(株)塩尻事業所 工房見学
- ②講演：「宝飾時計 石留めに対するモノづくりの想い」
セイコーエプソン(株)塩尻事業所W宝飾工房 茅野 広一氏
- ③合宿：松本東急イン
- 第4回・11月5日～6日・三菱重工業(株)長崎造船所
- ①見学：三菱重工業(株)長崎造船所本工場 タービン工場見学
- ②講演：「造船現場におけるものづくり革新～生産プロセス変革～」
三菱重工業(株)造船管理部次長 石黒 正浩氏
- ③見学：三菱重工業(株)長崎造船所香焼造船工場 建造ドック、展望台見学
- ④合宿：西鉄イン博多
- 第5回・1月28日・(有)桐山製作所
- ①見学：(有)桐山製作所
- ②講演： (有)桐山製作所技術顧問 板倉 啓祐氏、工場長 桐山 時男氏
- 第6回・3月4日～5日・核融合科学研究所
- ①見学：核融合科学研究所
- ②講演：「核融合研究と大規模コンピュータ・シミュレーション」
核融合科学研究所核融合理論シミュレーション研究室
炉心プラズマシミュレーション研究部門教授 渡邊 智彦氏
- ③見学：名鉄犬山ホテル

2. 学術セミナー・講習会

本会の目的達成をするために事業企画委員会で化学に関する専門的な学術セミナー・講習会等を企画・実施した。

第15講「研究開発リーダー実務講座2010」ービジネスチャンスを作る、掴む、活かすー
(6月9日～11月10日・大阪科学技術センター／毎月1回開講・全6回)

第1回(6月9日)：「成功につながる研究企画」(64名)

①「7人の達人に学ぶビジネスゲームに勝利するリーダーの役割」

前シンタファーマ社長兼最高執行責任者

Betal社・Flaxan社 ファウンダー兼最高科学責任者 小野 光則氏

②「研究開発の成功と失敗ー私の失敗を省みてー」

日本合成化学工業(株)特別顧問 下坂 雅俊氏

第2回（7月7日）：「ヒット商品はどうやって生まれたか」（55名）

①「元祖冷感繊維[ソフィスタ]」

(株)クラレ繊維素材企画開発部開発主管 中塚 均氏

②「エコ進化型超濃縮液体洗剤アタックNeoの開発」

花王(株)ハウスホールド研究所第1研究所グループリーダー 三宅登志夫氏

第3回（8月4日）：「技術をビジネスにつなげるには」（50名）

①「高分子系粘土ハイブリッド材料の産業化への道」

(株)豊田中央研究所取締役 白杵 有光氏

②「超撥水/超親水技術の応用」

元花王(株)/元北海道大学電子科学研究所教授

中央大学理工学研究科兼任講師 辻井 薫氏

第4回（9月1日）：「知財をビジネスに活かす」（49名）

①「知財戦略における新しい波：～ライフサイエンス分野を中心として～」

知的財産戦略ネットワーク(株)代表取締役 秋元 浩氏

②「企業/商品ブランドの高め方」

柳野国際特許事務所所長 柳野 隆生氏

第5回（10月6日）：「海外ビジネス実務のヒント/人を活かすマネジメント」

(45名)

①「海外化学品関連法令への対応」

長瀬産業(株)コンプライアンス部統括 濱口 雅彦氏

②「技術開発企業における技術者育成」

(株)島津製作所執行役員人事部長 藤井 浩之氏

第6回（11月10日）：「人材育成と研究開発」（58名）

①「技術戦略論と求められる研究開発リーダー像」

日東電工(株)執行役員副CTO全社技術部門長 表 利彦氏

②「知識とマインド～研究者に求められるもの－手振れ補正技術の研究事例を通じて－」

パナソニック(株)本社R&D部門顧問 大嶋 光昭氏

近化若手フォーラム「第6回」・6月25日・奈良県新公会堂 会議室1（49名）

①「月刊『化学』の舞台裏－雑誌編集よもやま話－」

(株)化学同人編集部月刊『化学』副編集長 杉坂 恵子氏

②「最新の液晶表示素子と液晶材料」

チッソ石油化学(株)研究第2センターグループリーダー 藤田 敦子氏

③「正倉院宝物の保存と有機材質調査」

宮内庁正倉院保存課保存科学室研究員 中村 力也氏

見学会 正倉院正倉の見学

近化資源セミナー「動き出したバイオマス資源産業－脱石油社会の実現に向けた革新的な技術戦略－」・8月5日・大阪科学技術センター（38名）

①「ソフトセルロース糖化技術開発とバイオエタノール実証事業の現状」

三菱重工業(株)機械・鉄構業務部事業開発グループ部長代理 西山 理郎氏

②「大阪府におけるエコ燃料（E3・E10）の取り組みについて」

大阪府環境農林水産部みどり・都市環境室地球環境課課長補佐 梅田 一也氏

③「バイオプラスチック“ポリ乳酸”の最新動向－原料，合成，成形加工から商品開発まで－」

京都工芸繊維大学繊維科学センター特任教授/元ユニチカ(株) 望月 政嗣氏

第2回マイクロバブル・ナノバブル技術講習会「マイクロバブル・ナノバブルの実用化と最新計測技術の講演・実演展示会～マイクロバブル・ナノバブルの測定と応用事例～」(日本混相流学会混相流技術リエゾン専門委員会と合同開催)・11月12日・大阪科学技術センター(98名・展示9社)

- ①「各種気体によるマイクロバブル・ナノバブルの特性と安定性」
東京大学大学院農学生命科学研究科教授 大下 誠一氏
- ②「マイクロバブルと生物の関係～微生物産業への利用の可能性～」
高知工業高等専門学校物質工学科准教授 秦 隆志氏
- ③「マイクロバブルも作れる多流体混合装置とその応用研究」
熊本大学大学院自然科学研究科教授 佐田富道雄氏
同 准教授 川原顕磨呂氏
- ④「超微細気泡生成技術GALFの原理と環境分野でのアプリケーション」
I D E C(株)環境事業推進部部長 石田 芳明氏
- ⑤「マイクロバブル・マイクロドロップ・マイクロパーティクルの生成と応用」
慶應義塾大学理工学部応用化学科教授 寺坂 宏一氏
- ⑥実演展示会

近化電池セミナー「有機系太陽電池の性能はどこまで向上したか！ー有機系太陽電池の最前線ー」・12月1日・大阪科学技術センター(51名)

- ①「色素増感太陽電池の開発およびその展望」
ソニー(株)コアデバイス開発本部発電デバイス開発部統括部長 野田 和宏氏
- ②「色素増感太陽電池の高温信頼化」
兵庫県立大学大学院工学研究科准教授 伊藤 省吾氏
- ③「色素増感太陽電池用光電変換電極材料と構成について」
日揮触媒化成(株)新規事業総合研究所基礎技術研究所 小柳 嗣雄氏
- ④「有機薄膜太陽電池の現状と将来」
大阪大学大学院工学研究科准教授 藤井 彰彦氏
- ⑤「有機薄膜太陽電池用新規アクセプターの開発」
大阪市立工業研究所有機材料研究部部長 大野 敏信氏
- ⑥「高性能有機薄膜太陽電池の開発」
住友化学(株)筑波研究所大西フェロー研究室 三宅 邦仁氏

新春セミナー2011・1月21日・ヒルトン大阪(80名)

- ①「技術・戦略・政策の融合による産業プロデュース」
(株)ドリームインキュベータ執行役員 岩本 隆氏
- ②「企業人材育成活動と野依フォーラムでの研究者・技術者育成」
(社)山陽技術振興会副会長 池上 正氏

第8回キンカ高分子化学研修コース・2月16日・大阪科学技術センター(31名)

- ①「高分子の基礎～モノマーの各新製法からリサイクルまで」
大阪市立大学大学院工学研究科教授 圓藤紀代司氏
- ②「高分子材料の解析技術～ナノスケールから見れば」
神戸大学大学院工学研究科教授 西野 孝氏
- ③「高分子の製造技術～重合反応装置における攪拌と混合」

住友重機械プロセス機器(株)事業開発部攪拌技術グループ

グループリーダー 彌富 隆一氏

④「高分子の実用化～CO₂を原料とする非ホスゲン法ポリカーボネート製造」

元旭化成(株)新事業本部技術アドバイザー 福岡 伸典氏

3. 学術講演会

本会通常総会終了後の特別講演会として5月28日・ヴィアーレ大阪で開催した。

特別講演会・5月28日・ヴィアーレ大阪(109名)

「日本企業改造論」

神戸大学大学院経営学研究科教授 三品 和広氏

4. 見学会(科学技術週間協賛行事)

科学技術の普及啓発活動の一環として、科学技術に関し、広く一般国民の関心と理解を深め、もって我が国の科学技術の振興を図ることを目的に下記見学会を実施した。

大阪市水道局「柴島浄水場」・「水道記念館」見学会・4月23日・大阪市水道局柴島浄水場/水道記念館(38名)

①見学会「浄水場・水道記念館」

②お話「大阪市の水道～安全でおいしい水をお届けするために～」

大阪市水道局担当係長(おいしい水計画アクションプラン) 中村 公彦氏

【技術交流事業】

1. キンカ東京サロン

東京在住の会員の世話による、斯界の第一人者を招いた化学に関する学術講演と討論を行い、会員交流・技術情報の交換を図った。

第97回・4月8日・住友化学(株)参宮橋寮(17名)

「農業と化学」

東京農業大学総合研究所教授 三輪睿太郎氏

第98回・6月25日～6月26日・和光純薬工業(株)湯河原研修センター(20名)

テーマ「第一次産業と化学」

①「植物工場～現状と課題～」

三菱化学(株)OPV事業推進室事業開発部長 安藤 達夫氏

②「森林から化学工業へ～物質とエネルギーの持続的な流れを作る～」

三重大学大学院物質資源研究科教授 船岡 正光氏

③「海水魚の養殖～クロマグロの完全養殖～」

近畿大学水産研究所所長 村田 修氏

第99回・9月16日・住友化学(株)参宮橋寮(15名)

「農業に於ける驚嘆の技術」

フリーダム(株)CEO 高藤 恭胤氏

第100回・11月18日・住友化学(株)参宮橋寮(22名)

「農業を科学する」

東京大学大学院農学生命科学研究科教授 中西 友子氏

第101回・2月10日・住友化学(株)参宮橋寮(13名)

「水のユニークさ；その科学と21世紀の水問題」

国際基督教大学名誉教授 吉野 輝夫氏

2. キンカ京都化学者クラブ

京都在住の会員の世話による、斯界の第一人者を招いた化学に関する学術講演と討論を行い、会員交流・技術情報の交換を図った。

原則として毎月第1土曜日に開催した。

- 第238回・4月3日・京大会館（15名）
「溶融塩と塩橋ーここで会ったが百年目」
京都大学大学院工学研究科物質エネルギー化学専攻教授 垣内 隆氏
- 第239回・5月1日・京大会館（12名）
「資源としての水を考える」 京都大学名誉教授 松井 正和氏
- 第240回・6月5日・京大会館（13名）
「作ってなんぼ売れてなんぼの地平からサイエンスを垣間見る」
京都電子工業㈱ 石原 進介氏
- 第241回・7月3日・京大会館（19名）
「化学から化術へーフロンティア電子，海洋トレース成分の研究を省みるー」
京都大学名誉教授 藤永太郎氏
- 第242回・8月7日・京都教育文化センター（18名）
「氷で計る。氷を計る。」 東京工業大学大学院理工学研究科教授 岡田 哲男氏
- 第243回・9月4日・京都教育文化センター（13名）
「沿岸海域における二酸化炭素の挙動に関する研究」
京都大学地球環境学博士 田口二三生氏
- 第244回・10月2日・京都教育文化センター（9名）
「東アフリカの湖沼ーヴィクトリア湖過去と現在ー」
京都大学名誉教授 中西 正己氏
- 第245回・（財）海洋化学研究所64周年秋季講演会・11月6日・京都大学宇治キャンパスおうばくプラザ（39名）
「琵琶湖の環境化学を了えて」 京都大学名誉教授 堀 智孝氏
「微小作用力と分析化学」 大阪大学名誉教授 渡會 仁氏
- 第246回・12月4日・京都大学楽友会館（15名）
「最新の分析装置は、こんなところで使われてる」
アナリティクイエナジャパン取締役 本多 和人氏
- 第247回・1月8日・京都大学楽友会館（11名）
「新春賀詞交歓会」
- 第248回・2月5日・京都大学楽友会館（13名）
「縄文人は何を食べていたのか？ー最新の科学分析で探る土器片の歴史ー」
名古屋大学年代測定総合研究センター研究員 宮田 佳樹氏
- 第249回・3月5日・京都大学楽友会館（14名）
「微小空間内の特異的な溶媒分配挙動に基づくキャピラリークロマトグラフィーの開発」
同志社大学理工学部化学システム創成工学科教授 塚越 一彦氏

3. 新年交歓会

化学並びに化学工業界の発展に尽くされた名誉会員をはじめ、大先輩をお招きして、産官学の会員約250名が一堂に会して、情報交換と交流を行った。

第65回新年交歓会・1月21日・ヒルトン大阪（261名）

4. 化学技術アドバイザー会（キンカCA）

アドバイザー登録者（近畿化学協会正会員の有志108名）による自主運営とし、近畿化学協会での位置づけ（組織図）は、研究部門委員会（専門部会・目的研究会）の規定を準用する体制のもとで活動を行なった。

会員企業及び一般企業から依頼があれば無料技術相談を行う活動と工学倫理研究会、化学教

育研究会、安全研究会では登録会員間の情報交換・懇談会及びこれまでの経験を生かした社会への貢献、啓発活動を行った。

無料技術相談日：随時対応

アドバイザー情報交換・懇談会：年間4回開催

工学倫理研究会：毎月1回（第4月曜日）

化学教育研究会：毎月1回（第2水曜日）

安全研究会：毎月1回（第1水曜日）

【情報交換・懇談会】

5/12（43名）、8/23（20名）、11/24（32名）、2/28（34名）

【工学倫理研究会】

工学倫理の教授法について意見交換を重ねるとともに、大学・学校などへ講師の推薦を行った。

第75回（4/26・21名）第76回（5/24・11名）第77回（6/28・20名）

第78回（7/26・21名）第79回（9/27・22名）第80回（10/25・18名）

第81回（11/24・15名）第82回（1/24・18名）第83回（2/28・29名）

第84回（3/28・20名）

【化学教育研究会】

学生（小学生から大学院生まで）を対象として地球環境・産業に関わる化学育成支援および専門化学教育支援を行った。

第78回（4/14・12名）第79回（5/12・17名）第80回（6/9・17名）

第81回（7/14・13名）第82回（9/8・18名）第83回（10/20・12名）

第84回（11/10・16名）第85回（12/18・15名）第86回（1/12・10名）

第87回（2/9・16名）第88回（3/9・17名）

【安全研究会】

公的機関と企業と大学向け教育資料作成と安全指導の実施を行った。

第65回（4/7・14名）第66回（6/2・10名）第67回（7/7・10名）

第68回（9/1・9名）第69回（10/6・11名）第70回（11/10・13名）

第71回（12/1・10名）第72回（1/5・14名）第73回（2/2・15名）

第74回（3/2・13名）

【国際研究集会・国際交流事業】

1. 韓国工業化学会との交流

平成16年（2004年）に締結された国際交流協定書をもとに相互の人的交流を行うほか、情報交換・化学啓発行事（論文の相互掲載・学術セミナー・学術講演会など）への参加を促進することで両国の学術や化学および周辺産業のレベルアップに寄与すべく活動した。

・韓国化学工学会春季年会（創立20周年記念大会）・5月12日～14日・釜山
（招待講演3名）

2. 韓国蔚山工業誘致協会（精密化学品工業センター）・社団法人韓国中小化学企業協会との交流

平成19年（2007年）に締結された国際交流協定書をもとに相互の人的交流を行うほか、研究開発や情報交換に関する協力関係を進めること及び化学啓発行事への参加を促進ことで両国の学術や化学および周辺産業のレベルアップに寄与すべく活動した。

3. 日中化学産官学交流

多くの日本の化学系企業が進出している上海地域における会員企業と中国の大学、研究機関との交流の機会として2006年より「日中産官学交流会」を年1回中国上海市にて開催している。「中日化学産官学沙龍」は交流会の開催だけでは、近化らしい「人的ネットワーク」の構築が困難なので、会員のニーズにあった歓談会等の企画と運営を行った。

- ・第5回日中化学産官学交流会・10月29日（金）・上海交通大学（115名）
- ・日中化学産官学サロン（中日化学産官学沙龍）（1回）（10/29）

【化学に関する知識普及及び情報の提供事業】

1. 会誌「近畿化学工業界」（月刊）（第61巻4号～12号、第62巻1号～第62巻3号）
科学技術の市井の中での化学分野を中心とした話題の研究や技術、研究開発苦心談等を易しく解説した記事の掲載やその時代に即応した最新の情報をわかりやすく紹介することで化学に関する知識の普及及び情報を提供し、科学技術の普及と振興を図った。

【優れた研究業績の顕彰事業】

1. 平成21年度第62回化学技術賞授賞者4件・11名並びに第10回環境技術賞授賞者2件9名を第27回通常総会の席上にて表彰した。
定款及び表彰規定に基づき、化学技術賞等選考委員会にて選定された技術者の表彰を行った。
2. 平成22年度第63回化学技術賞並びに第11回環境技術賞の審査、選定を行った。
（3月1日）
第63回「化学技術賞」
平成22年度内における化学に関連する研究・技術で、工業化したもの、工業化しうるもの、工業化への寄与が著しいもので、特に顕著な業績のあった者を、本会の定款及び表彰規定に基づき、第63回「化学技術賞」授賞者として、7件・24名を選定。
 - ①「ポリエステル用アルミ系触媒の開発と工業化」
東洋紡績(株) 蔭山 勝彦氏、福田 裕樹氏、東田 淳氏、魚谷 耕輔氏、前田 邦浩氏
 - ②「無溶剤人工皮革〈ティレニーナ〉の工業化」
(株)クラレ 成木 直人氏、藤澤 道憲氏、牧山 法生氏、村手 靖典氏、佐藤 直人氏
 - ③「キラル特殊アミノ酸の工業的製造法の開発」
宇部興産(株) 山本 康仁氏
UBE America Inc. 古根川 唯康氏
 - ④「新規トナー用高機能固体エステルワックスの開発」
日油(株) 山田 宗宏氏、澤田 公平氏、湯川 加代子氏
 - ⑤「組換え酵素触媒による光学活性マンデル酸類の新規製造技術の開発」
(株)日本触媒 土橋 幸生氏、伊藤 壮史氏
日宝化学(株) 飯島 学氏
 - ⑥「自動車工業向け両面粘着テープの低VOC化技術の開発（#5782LSVの開発）」
積水化学工業(株) 森口 慎太郎氏
 - ⑦「クリーンルーム空気中の短時間、高感度イオン成分評価方法の開発」
(株)住化分析センター 大川 典子氏、守屋 達氏、嶋田 いつか氏
石渡 夕子氏、清水 眞理氏

第11回「環境技術賞」

平成22年度内における化学に関連する研究・技術で、地球環境との共存並びにその維持・改善を積極的に意識し、方向付けがなされた新技術・改良技術で、特に顕著な業績のあった

者を、本会の定款及び表彰規定に基づき、第11回「環境技術賞」授賞者として、3件・6名を選定。

①「環境にやさしい香料ヘリオフレッシュ (HLF) ®の開発」

宇部興産(株) 吉田 佳弘氏、佐直 英治氏

②「生分解性合成エステル系潤滑油 (ミルループ®Eシリーズ)」の開発」

日油(株) 川本 英貴氏、加治木 武氏

③「セラミックフィルター用中空粒子の開発」

徳山積水工業(株) 古川 敏治氏

積水化学工業(株) 山内 博史氏

【専門部会事業】

科学技術の振興を図ることを目的に化学の専門分野に応じた下記9の専門部会を設置。部会の設置並びに解散については定款によるほか部会規定及び各々の専門部会要綱の定めるところにより運営した。専門部会は部会の目的に沿って部会員の活動の場となり、部会員が協力して相互の学術的及び技術的知識の増進を図ることを目的として、例会(学術講演会)、基礎講習会、学術講習会、学術セミナー、討論会、シンポジウム、フォーラム、公開講演会、懇話会等を行った。

第1部会(有機金属部会)

有機金属化学における基礎研究並びにスペシャリティケミカルズの開発に関する研究会として例会(学術講演会)・学術セミナー・討論会等の実施および知識普及事業として部会機関誌 Organometallic Newsを刊行した。

第1回例会・4月20日・大阪科学技術センター(23名)

①「高配位高周期14族元素化合物の化学」 学習院大学理学部客員教授 川島 隆幸氏

②「(ポリピラゾリルボラト)ルテニウム及び関連の有機金属錯体の化学」

長崎大学名誉教授 大西 正義氏

③「有機ボロン酸の触媒化学」

北海道大学大学院工学研究科有機プロセス工学専攻特任教授 宮浦 憲夫氏

第2回例会・6月17日・東京大学(107名)

①「ホモアリルアルコールのレトロアリル化ならびにその関連反応を利用した選択的有機合成反応」 京都大学副理事・環境安全保健機構長 大寫幸一郎氏

②「安定な結合を切断して炭素-炭素結合に変換する触媒反応の創出」

中央大学研究開発機構教授 兼 理工学研究科客員教授 檜山爲次郎氏

③「ロジウム有機金属錯体の結晶相フォトクロミック反応とそのダイナミクス」

九州大学学術研究員 磯邊 清氏

第37回有機金属化学セミナー・6月18日・キャンパスプラザ京都(134名)

①「遷移金属錯体触媒反応の基礎」 大阪大学大学院工学研究科教授 生越 専介氏

②「クロスカップリング反応」 京都大学大学院工学研究科教授 杉野目道紀氏

③「C-H官能基化」 京都大学大学院工学研究科助教 中尾 佳亮氏

④「オレフィンメタセシス反応」 大阪大学大学院理学研究科教授 鬼塚 清孝氏

⑤「不斉酸化-オレフィンへの酸素および窒素官能基の導入」

大阪大学大学院工学研究科教授 南方 聖司氏

⑥トピックス「鉄触媒による精密炭素-炭素結合生成反応の最近の展開」

京都大学化学研究所附属元素科学国際研究センター教授 中村 正治氏

第57回有機金属化学討論会・9月16日~18日・中央大学多摩キャンパス(658名)

口頭発表46件、ショートトーク、ポスター発表214件

60周年記念講演会・9月17日・中央大学多摩キャンパス

- ①「ジエン錯体と共に」 大阪大学名誉教授 中村 晃氏
②「有機金属部会発足の頃の思い出」 理化学研究所名誉研究員 山崎 博史氏
③「わが国 有機ケイ素化学の進展」 東北大学名誉教授 櫻井 英樹氏
④「チーグラ触媒発見の衝撃」

- 東京工業大学名誉教授／早稲田大学理工学研究センター名誉研究員 山本 明夫氏
⑤「パラジウム触媒の研究回顧」 東京工業大学名誉教授 辻 二郎氏

第3回例会・11月19日・金沢大学（71名）

- ①「ロジウム触媒を活用するアレンの新規環化異性化反応」
金沢大学医薬保健研究域教授 向 智里氏
②「多核サンドイッチ錯体の構築～不飽和炭化水素類の鑄型効果」
大阪大学大学院工学研究科准教授 村橋 哲郎氏
③「芳香環連結の化学－構造制御と機能開拓」

- 京都大学大学院工学研究科教授 杉野目道紀氏

第4回例会・2月1日・大阪大学中之島センター（34名）

－2010年のトピックス－

- ①「遷移金属を用いるカルボメタル化反応による選択的多置換オレフィンの合成」
岡山大学大学院自然科学研究科教授 西原 康師氏
②「ケイ素－炭素結合の活性化に基づく新規有機合成反応の開発」
埼玉大学大学院理工学研究科教授 三浦 勝清氏
③「ルテニウム触媒によるアリル位置換反応の新展開」
大阪大学大学院理学研究科教授 鬼塚 清孝氏

部会機関誌 Organometallic News 2010.No.2, 3(Web版), 2011 No.1, 冊子体刊行

第2部会（合成部会）

有機合成化学の基礎研究並びに医薬、農薬、エネルギー開発、生体模倣材料の合成化学的開発に関する研究会として合成フォーラム等を実施。部会内に設置されたフロー・マイクロ合成研究会では、自動合成やマイクロリアクターを使った合成に関する研究会部会内の研究会として研究会（学術講演会）、公開講演会&展示会等を実施した。

第1回合成フォーラム・4月21日・理化学研究所（40名）

テーマ「研究の現場を訪ねる」

- ①「医薬中間体のビジネス展開－光学活性化化合物の工業化－」
ダイソー(株)研究開発本部取締役・研究開発本部長兼研究所所長 古川 喜朗氏
②「経口固形剤の製剤設計・製造設計」
塩野義製薬(株)CMC技術研究所製剤研究センター長 谷野 忠嗣氏

第2回合成フォーラム・11月5日・大阪大学吹田キャンパス（39名）

テーマ「超臨界流体クロマトグラフィーを利用した分離技術」

- ①「メタボロミクスにおける超臨界流体クロマトグラフィーの可能性」
大阪大学大学院工学研究科生命先端工学専攻 馬場 健史氏
②「超臨界クロマトグラフィー（SFC）を用いた香料化合物の光学分割」
高砂香料工業(株)研究開発本部分析技術研究所第2部 矢口 善博氏
③「キラルSFCによる少量分取」

- ダイセル化学工業(株)CPIカンパニー生産部FPC室 宮澤賢一郎氏
④研究室見学 生命先端工学専攻・超臨界流体クロマトグラフィー装置

[フロー・マイクロ合成研究会]

第46回研究会・6月11日・大阪科学技術センター（51名）

- ①「英国Uniqsis社フロー合成システムFlowSynのご紹介」
株式会社スクラム営業開発室室長 太田 清行氏
 - ②「マイクロフローリアクターを用いた梯子状ポリエーテル天然物合成の効率化」
九州大学大学院理学研究院化学部門教授 大石 徹氏
 - ③「新薬開発における新しいデバイスの利用」
塩野義製薬株式会社CMC技術研究所リサーチアドバイザー 鴻池 敏郎氏
- 第23回公開講演会&展示会・7月30日・大阪科学技術センター（102名）
- ①「From Conventional to Microphotochemistry」
James Cook University, Australia Assoc. Prof. Michael Oelgemöller氏
 - ②「フルオラスマイクロフローシステムによる糖誘導体の合成」
(財)野口研究所糖鎖有機化学研究室室長 水野 真盛氏
 - ③出展企業プレゼンテーション
 - ④「最近のフロー・マイクロ合成に関するトピックス（最新論文等の紹介）」
大阪府立大学大学院理学系研究科教授 佐藤 正明氏
 - ⑤「超臨界流体と高圧マイクロエンジニアリングの融合」
(独)産業技術総合研究所コンパクト化学システム研究センター
主幹研究員 鈴木 明氏
 - ⑥【第5回銅金賞受賞講演】「時間を空間で制御する合成化学」
京都大学大学院工学研究科教授 吉田 潤一氏

第47回研究会・10月29日・大阪科学技術センター（45名）

- ①「マイクロリアクターを用いた機能性有機分子の合成」
岡山理科大学工学部バイオ・応用化学科教授 折田 明浩氏
 - ②「日本曹達株式会社におけるマイクロリアクターへの取り組み」
日本曹達株式会社二本木工場生産技術研究所主席研究員 寒河江隆浩氏
 - ③「マイクロリアクターを用いたフッ素系ファインケミカル製品の合成」
ダイキン工業株式会社化学事業部プロセス技術部 中谷 英樹氏
- 第24回東京公開講演会（第48回研究会）・1月28日・日本大学桜門会館（57名）
- ①「Enabling Technologies in Organic Chemistry- From Minireactors to New Heating Techniques」
University of Hannover, Germany Prof. Andreas Kirschning氏
 - ②「疑似移動床法(SMB法)を用いた光学異性体の分離技術」
ダイセル化学工業株式会社新井工場CPIカンパニー
ライフサイエンス開発センター主任研究員 蓑田 稔治氏
 - ③「積層型多流路反応器（大容量マイクロチャンネルリアクター）の開発」
株式会社神戸製鋼所機械事業部門機器本部担当課長 野一色公二氏

第3部会（触媒・表面部会）

触媒化学の基礎研究並びにファインケミカルズ開発の触媒設計等に関する研究会としてキャタリストクラブ例会（学術講演会）、学術セミナー、学術講習会等を実施した。

第1回キャタリストクラブ例会・5月7日・大阪科学技術センター（35名）

- ①「銀触媒による環境調和型有機合成における触媒設計の考え方」
名古屋大学大学院工学研究科物質制御工学専攻助教 清水 研一氏
- ②「遷移金属イオン・酸化物を活性種とするシングルサイト触媒の構築」
大阪府立大学大学院工学研究科物質・化学系専攻教授 松岡 雅也氏

第2回キャタリストクラブ例会【第3回触媒表面化学研究発表会】・10月15日・関西大学（62名）

①開会挨拶

②「担持金属触媒によるカルボニル化合物の還元反応ーカルボニル基を選択的に活性化するためにはー」 神戸大学大学院工学研究科応用化学専攻教授 西山 覚氏

③ショートトーク

④ポスターセッション

入門触媒科学セミナー・11月24日～25日・大阪科学技術センター（45名）

①「触媒科学の基本概念ーこれだけは知っておこう」

京都大学大学院工学研究科准教授 宍戸 哲也氏

②「金属表面と触媒作用ー白金、パラジウムおよび関連触媒を例として」

徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部教授 杉山 茂氏

③「金属酸化物の触媒作用ー酸化還元を理解する」

愛媛大学大学院理工学研究科教授 八尋 秀典氏

④「触媒調製化学とナノ構造体触媒」

近畿大学理工学部准教授 古南 博氏

⑤「固体表面の酸・塩基点とその触媒機能」

北陸先端科学技術大学院大学マテリアルサイエンス研究科教授 海老谷幸喜氏

⑥「錯体の触媒作用ー特異なナノ反応場を利用した反応の精密制御」

首都大学東京大学院理工学研究科教授 野村 琴広氏

ナノ材料の表面分析講習・12月9日～10日・関西大学（46名）

①「表面分析概論」

神戸大学大学院工学研究科教授 西山 覚氏

②「昇温スペクトル(TPD, TPR)」

京都大学大学院工学研究科准教授 宍戸 哲也氏

③「赤外・ラマンスペクトル」

関西大学環境都市工学部准教授 池永 直樹氏

④「電子スピン共鳴(ESR)」

大阪府立大学大学院工学研究科教授 松岡 雅也氏

⑤「XAFS」

徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アント・サイエンス研究部准教授 山本 孝氏

⑥「核磁気共鳴(NMR)」

京都大学大学院工学研究科准教授 和田 健司氏

⑦「TEM・SEM・STM・AFM」

近畿大学理工学部准教授 古南 博氏

⑧「総論・ケーススタディー」

大阪大学大学院工学研究科教授 山下 弘巳氏

⑨「X線回折(XRD)・蛍光X線」

京都大学大学院工学研究科助教 細川 三郎氏

⑩「MS, SIMS」

神戸大学大学院工学研究科准教授 市橋 祐一氏

⑪「X線光電子分光法(XPS)」

大阪府立大学大学院工学研究科准教授 竹内 雅人氏

⑫「紫外可視・光ルミネセンス」

大阪工業大学工学部講師 東本 慎也氏

第3回キャタリストクラブ例会・1月28日・大阪科学技術センター（25名）

①「水素化脱硫触媒の機能発現機構と高活性化」

島根大学名誉教授 岡本 康昭氏

②「ワッカー型酸化反応とその触媒種の挙動」

(独)科学技術振興機構JSTイノベーションサテライト高知館長 細川 隆弘氏

第4部会 (ヘテロ原子部会)

脱硫、脱硝に伴う副生物の有効利用、ヘテロ原子化学の基礎研究並びに応用開発に関する研究会として懇話会(学術講演・見学会)等を実施した。

第1回懇話会・4月28日・長浜バイオ大学(17名)

①「シリン遷移金属錯体による強い結合の切断反応」

大阪市立大学大学院理学研究科教授 中沢 浩氏

②「アフィニティラベル法による抗がん剤候補物質の作用点解析」

長浜バイオ大学バイオサイエンス学部講師 長谷川 慎氏

③長浜バイオ大学研究室・動物実験施設見学会

第2回懇話会・9月24日・大阪大学総合学術博物館（17名）

①「新規な有機骨格配位子によるルイス酸性制御法」

大阪大学大学院工学研究科准教授 安田 誠氏

②「 dendroliマー型置換基を有する光機能性分子」

岡山大学大学院環境学研究科准教授 高口 豊氏

③大阪大学総合学術博物館見学会

第3回懇話会・2月17日・大阪科学技術センター（21名）

①「有機ケイ素及びホウ素試薬を用いる不活性結合の触媒的変換反応」

大阪大学大学院工学研究科附属フロンティア研究センター特任講師 鳶巢 守氏

②「協働金属触媒による炭素-炭素結合形成付加反応」

京都大学大学院工学研究科講師 中尾 佳亮氏

③「ベンゾジチオフェン誘導体を用いた有機エレクトロニクス材料の開発」

和歌山大学システム工学部准教授 大須賀秀次氏

第5部会（バイオ部会）

バイオテクノロジーの基礎研究並びに工業生産技術開発に関する研究会として例会（学術講演会）等を実施した。

第1回例会（公開）・7月6日・月桂冠(株)昭和蔵工場（26名）

①「メラニン前駆体を用いた新しい白髪用染毛料のバイオ生産」

月桂冠(株)総合研究所 鈴木佐知子氏

②「石油依存化学の終わりののはじまり—新産業革命に向けて—」

京都大学大学院農学研究科教授 植田 充美氏

③見学会 月桂冠大倉記念館

第2回例会（公開）・11月26日・（独）医薬基盤研究所（25名）

①「iPS細胞の創薬応用—遺伝子導入技術を駆使したヒトiPS細胞から肝細胞への高効率分化誘導と評価系への応用—」

大阪大学大学院薬学研究科教授

（独）医薬基盤研究所創薬基盤研究部幹細胞制御プロジェクト 水口 裕之氏

第6部会（機能性色素部会）

機能性色素材料の基礎研究並びにデザイン、合成、物性等に関する研究会として例会（学術講演会）、公開講演会を実施した。2年に1回200名規模の機能性色素および先端材料に関する東アジアシンポジウム(EAS5)をアジア地域において実施すべく準備委員会を開催した。

第75回例会・4月27日・大阪科学技術センター（39名）

テーマ「光半導体色素とその応用」

①「電子写真用有機半導体 ～技術の変遷と最近の動向～」

三菱化学(株)イメージング事業部小田原情報機材センター課長代理 水島 直氏

②「有機光電変換膜を用いたCMOSイメージセンサー」

富士フイルム(株)先端コア技術研究所主席研究員 井浜三樹男氏

③「有機半導体における光伝導性とその応用」

東京工業大学像情報工学研究所教授 半那 純一氏

第76回例会・8月3日・大阪科学技術センター（51名）

テーマ「色素増感太陽電池の現状と展望」

①「DSC用色素の展望」

(株)ケミクレア取締役つくば研究所所長 三浦 偉俊氏

- ② 「TDKにおける太陽電池の開発」
TDK(株)デバイス開発センター主査 新海 正博氏
- ③ 「色素増感太陽電池に用いるカルバゾール系有機色素の開発」
(独) 産業技術総合研究所太陽光発電研究センター有機新材料チーム 甲村 長利氏
講演会「機能性有機材料の産業とイノベーション」・9月6日・クリエイションコア東大阪
(121名) [共催事業](主催:大阪府立大学機能性有機材料開発研究センター)
- ① 「大学と協同するモノづくり技術支援—府立大学と包括連携協定を結んで—」
大阪府立産業技術総合研究所次長 水谷 潔氏
- ② 「機能性色素をコアとするイノベーション」
三菱化学(株)経営戦略部門RD戦略室フェロー 前田 修一氏
- ③ 「「中小企業の機能化商品戦略」着色剤からプラゲノムまで企業40年間の歩み」
(株)ヘキサケミカル代表取締役社長 福井 眞彌氏
- ④ 「機能性有機材料開発研究センターの概要と今後の取組み」
大阪府立大学機能性有機材料開発研究センター長 中澄 博行氏
公開講演会・11月2日・化学会館 [エレクトロニクス部会と共催] (48名)
テーマ「電子ペーパーの市場展望とバックプレーインの現状」
- ① 「電子書籍の技術と市場動向」 (株)野村総合研究所 藤浪 啓氏
- ② 「液晶物質の薄膜トランジスタへの応用」
東京工業大学像情報工学研究所助教 飯野 裕明氏
- ③ 「有機TFETの動向」 大日本印刷(株)研究開発センター 前田 博己氏
- ④ 「Organic Materials Technology for Backplane Application」
BASF Schweiz, AG Marcel Kastler氏
- ⑤ 「アクティブマトリクス型電子ペーパーの駆動技術」
NEC液晶テクノロジー(株)研究開発部 坂本 道昭氏
第77回例会・2月8日・大阪科学技術センター (51名)
テーマ「有機EL関連材料の現状と展望」
- ① 「PEDOTの最新技術動向と応用展開」 日本先端科学(株)常務取締役 橋本 定待氏
- ② 「エポキシ樹脂による有機EL封止技術」
ナガセケムテックス(株)電子構造材料本部電子材料部 佐古 健氏
- ③ 「新しい有機発光材料の可能性へ」
九州大学最先端有機光エレクトロニクス研究センターセンター長
同 工学府応用化学部門教授 安達千波矢氏

第7部会 (エレクトロニクス部会)

電子材料の新素材研究と学際領域の技術開発に関する研究会として例会 (学術講演会)、研修セミナー、公開講演会等及び、部会機関誌 Electronics Communicationsを刊行した。

- 第1回例会・5月13日・大阪科学技術センター (31名)
テーマ「量子ドットおよび量子効果の最近の開発動向」
- ① 「半導体量子ドットの分光増感機能と太陽電池への応用」
電気通信大学電気通信学部量子・物質工学科教授 豊田 太郎氏
- ② 「廃熱回収用熱電発電技術の開発動向」
(独) 産業技術総合研究所ユビキタスエネルギー研究部門主任研究員 舟橋 良次氏
- ③ 「量産化をめざした銀ナノ粒子の生成と半導体接合への応用」
大阪市立大学名誉教授/ (株)応用ナノ粒子研究所 代表取締役 小松 晃雄氏
- ④ 「ナノサイズで実現した室温超イオン伝導-ヨウ化銀ナノ粒子とその応用-」

大阪府立大学 21世紀科学研究機構

ナノ科学・材料研究センター 特別講師 牧浦 理恵氏

第1回見学・研修セミナー・7月15日・三洋電機(株)本社第一ビル(42名)

テーマ「高効率太陽光発電、および次世代固体電池の開発動向」

①「三洋電機(株) 会社紹介」

②「三洋電機(株) における太陽光発電の取り組み」

三洋電機(株)研究開発本部アドバンストエナジー研究所所長 田中 誠氏

③「全固体リチウム電池の最近の取り組み」

大阪府立大学大学院工学研究科応用化学分野助教 林 晃敏氏

見学：SANYO MUSEUM

第2回見学・研修セミナー10月22日・カネカソーラーテック(株)(29名)

①「カネカソーラーテック(株)会社紹介および薄膜シリコン概略」

カネカソーラーテック(株)社長 久保田 廣氏

②「太陽電池の国内外の現状と展望」

(株)カネカ技術統括部技術チームリーダー 新田 佳照氏

③「有機薄膜太陽電池の現状とデバイス物理」

大阪府立大学大学院工学研究科電子・数物系専攻 教授 内藤 裕義氏

見学：製造工程の見学、説明

公開講演会「機能性色素部会と共催」(前出)

公開講演会(第2回例会)・1月18日・大阪科学技術センター(65名)

テーマ「二次電池の開発最前線」

①「NEDOにおける蓄電池技術開発の現状と今後の課題」

(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構蓄電池技術開発室 室長 弓取 修二氏

②「最新二次電池技術の課題と開発動向」

(株)KRI顧問/長崎総合科学大学客員教授 矢田 静邦氏

③「リチウムイオン二次電池用新規 Li_2MnO_3 系正極材料の開発」

(独)産業技術総合研究所関西センターユビキタスエネルギー研究部門

蓄電デバイス研究Gr主任研究員 田淵 光春氏

④「シリコン系負極材料を用いた高容量角型リチウムイオン電池」

日立マクセル(株)開発本部技師長 長井 龍氏

⑤「多電子系有機電池」

(株)村田製作所 技術・事業開発本部化学材料開発部主任研究員 佐藤 正春氏

部会機関誌 Electronics Communications No.26刊行

第8部会(コンピュータ化学部会)

物質のデザイン、生産工程のコントロール、人工知能開発研究に関する研究会として例会(学術講演会)、公開講演会、公開セミナー等を実施した。

第78回例会・5月21日・大阪科学技術センター(22名)

テーマ「QM/MM手法による凝集化学反応系シミュレーション」

①「エネルギー表示法による溶液系の自由エネルギー解析」

京都大学化学研究所環境物質化学研究系准教授 松林 伸幸氏

②「溶液内化学反応の理論化学」

京都大学大学院工学研究科分子工学専攻准教授 佐藤 啓文氏

③「QM/MM-MDシミュレーションによる機能性物質の解析」

大阪府立大学大学院理学系研究科准教授 麻田 俊雄氏

第79回例会・10月25日・大阪科学技術センター（21名）

テーマ「電子機能有機材料への計算化学的アプローチ」

①「有機電子デバイス材料の構造と電気的性質」

早稲田大学先進理工学部化学・生命化学科教授 古川 行夫氏

②「結晶構造計算と結晶多形スクリーニング技術の開発」

豊橋技術科学大学情報・知能工学系知識情報学分野准教授 後藤 仁志氏

③「結晶構造予測—超球面探索法によるアプローチ—」

和歌山大学システム工学部精密物質学科准教授 山門 英雄氏

公開講演会（第80回例会）・1月31日・大阪国際会議場（19名）

テーマ「ハイパフォーマンスコンピューティングによるバイオ・創薬シミュレーションの新展開」

①「ナノバイオサイエンスと次世代コンピューターの融合」

甲南大学先端生命工学研究所 所長／フロンティアサイエンス学部教授 杉本 直己氏

②「ハイパフォーマンスコンピュータを利用した次世代創薬研究」

(独)理化学研究所計算生命科学センター設立準備室

生命モデリングコア計算分子設計研究グループ上級研究員 沖本 憲明氏

③「タンパク質動力学と自由エネルギー」

東京大学先端科学技術研究センター特任教授 藤谷 秀章氏

第9部会（重合工学部会）

重合体製造におけるプロセスに関する研究会として例会（学術講演会）、重合プロセスの基礎講習会等を実施。部会内に設置されたPVC委員会はビニルポリマーの化学に関する基礎・応用両面にわたる研究会として塩ビフォーラム（学術講演会と討論）等を実施した。

第1回例会・6月11日・大阪科学技術センター（18名）

①「抵抗低減剤を用いた省エネルギー技術の開発と普及」

山口大学大学院理工学研究科環境共生系専攻 佐伯 隆氏

②「バイオ技術を用いた機能性物質の創製」

長瀬産業(株)R&Dセンターバイオ製品開発チーム 白坂 直輝氏

③「環境調和型改質PLA樹脂の開発」 花王(株)化学品研究所第2研究室

武中 晃氏

第2回例会・9月10日・大阪府立大学（13名）

①「線維化度の異なるコラーゲンゲルの研究」

大阪府立大学大学院理学系研究科教授 原 正之氏

②「粒子充填層を用いた均一モノマー液滴の作製と連続懸濁重合」

大阪府立大学大学院工学研究科准教授 安田 昌弘氏

見学：研究室、放射線研究センター

重合プロセスの基礎講習会・10月25日～26日・総評会館（33名）

①「重合触媒と重合反応速度論」 大阪市立大学大学院工学研究科教授 圓藤紀代司氏

②「乳化重合プロセスの反応操作設計」 神戸大学大学院工学研究科教授 大村 直人氏

③「日本の高分子工業の現状と課題」 日本ゼオン(株)生産革新センター 浅野 健治氏

④「高粘度流体の攪拌・混合」 大阪大学名誉教授 平田 雄志氏

⑤「重合反応装置の基本設計と事例紹介」 住友重機械プロセス機器(株) 彌富 隆一氏

⑥「懸濁重合攪拌槽のスケールアップにおけるポリマー粒径制御の失敗例と成功例」

住友化学(株)生産技術センター 清水 豊満氏

⑦「ポリマー分離工程における押出機の適用」

(株)日本製鋼所広島製作所樹脂製造機械技術グループ 稲川 憲司氏

塩ビフォーラム・12月3日・住友不動産六甲ビル（60名）

招待講演

- ①「環境・資源問題を軸にした塩ビの新たな可能性」塩ビ工業・環境協会 一色 実氏
 - ②「電気自動車の開発研究」 広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授 升島 努氏
- 研究発表3件

【関連学協会との連携及び合同事務局の運営事業】

1. 関連学協会行事協賛

化学分野の学術団体が主催する学術セミナー・学術講演会などの行事に協賛し、内容を会誌などで会員に周知した。

2. 学協会との連携及び合同事務局運営事業

科学技術の振興を図ることを目的とした化学系の学術6団体が財団法人大阪科学技術センタービル608号室に同居し、部屋代・人件費・社会保険料・事務局運営経費などを分担することによって、事務局職員を共同で保有する合同事務局運営体制をとり、必要な経費（人件費・事務所費・事務運営費）を合同事務局運営委員会で決められた割合で分担する。近畿化学協会はその費用を預かり収支相償で経理処理等を行った。

近畿化学協会および同居の学術団体は分担支払いをすることで、経費の節減に大いに役だっている。また、事務局職員を共同で保有することにより、事務能率のアップと会員は同居の学協会の情報や動きをいち早く知ることができる大きなメリットがある。

*合同事務局運営委員会を構成する団体は社団法人近畿化学協会・社団法人日本化学会近畿支部・社団法人化学工学会関西支部・社団法人日本分析化学会近畿支部・社団法人有機合成化学協会関西支部・環境分析技術協議会の6法人である。